

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 11-162358

(43)Date of publication of application : 18.06.1999

(51)Int.Cl.

H01J 11/02
H01J 9/02
H01J 9/227

(21)Application number : 09-327750

(71)Applicant : MATSUSHITA ELECTRIC IND CO LTD

(22)Date of filing : 28.11.1997

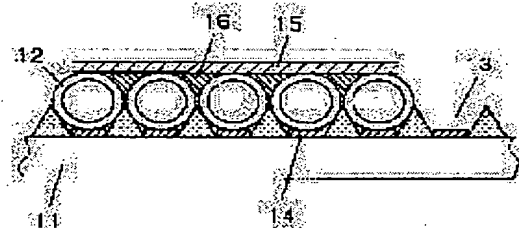
(72)Inventor :
AOKI MASAKI
YASUI HIDEAKI
KAWAHARA ISAO
INOUE KAZUO
NAGAO NOBUAKI

(54) IMAGE DISPLAY DEVICE AND MANUFACTURE THEREOF

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To reduce the weight of an image display device, and to improve the luminance thereof.

SOLUTION: A device has hollow and thin tubes 12 having phosphor and filled with the discharge gas and a stripe groove 13 previously provided on a surface of a board 11, and the hollow and thin tubes 12 are held on the grooves 13 by a holding member such as a resin 16 on a display electrode (address electrode) 14 provided in a bottom of the grooves 13, and a discharge electrode 15 is provided on the surface of the hollow thin tubes 12. Since narrow and light hollow pipe-like light emitting tubes are used in a front surface side of a panel and a plastic board is used in a back surface side thereof, weight of an image forming device is reduced, and luminance thereof is improved.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-162358

(43) 公開日 平成11年(1999) 6月18日

(51) Int.Cl.⁸
H 0 1 J 11/02

識別記号

F I
H 0 1 J 11/02

B
Z
F
E

9/02
9/227

9/02
9/227

審査請求 未請求 請求項の数7 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願平9-327750

(22) 出願日 平成9年(1997)11月28日

(71) 出願人 000005821

松下電器産業株式会社
大阪府門真市大字門真1006番地

(72) 発明者 青木 正樹

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

(72) 発明者 安井 秀明

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

(72) 発明者 川原 功

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

(74) 代理人 弁理士 滝本 智之 (外1名)

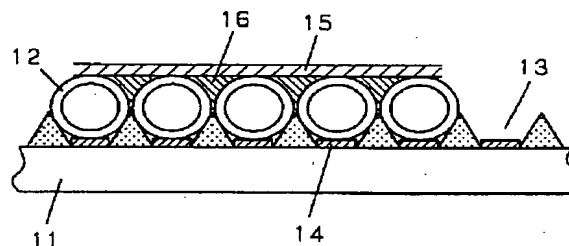
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 画像表示装置及びその製造方法

(57) 【要約】

【課題】 画像表示装置の軽量化、高輝度化を計ることを目的とする。

【解決手段】 蛍光体を有し放電ガスが封入された中空状の細線管12と、基板11の表面上に予め設けられたストライプ状の溝13を有し、溝13の底部に設けられた表示電極(アドレス電極)14上に樹脂16等の保持部材で中空状の細線管12が溝13上に保持され、中空状の細線管12の表面上に放電電極15が設けられたもので、このように、パネルの前面側に細く軽い中空パイプ状発光管を用い、背面側にプラスチック基板を使用することにより、画像表示装置の軽量化、高輝度化を計る。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 内面に蛍光体層が設けられ放電ガスが封入された中空状の細線管と、基板の表面上に設けられたストライプ状の溝を有し、前記溝の底部に設けられた表示電極（アドレス電極）上に樹脂等の保持部材で前記中空状の細線管が前記溝上に保持され、前記中空状の細線管の表面上に放電電極が設けられたことを特徴とする画像表示装置。

【請求項2】 内部に放電ガスが封入された蛍光体物質を含有する中空状の細線管と、基板の表面上に設けられたストライプ状の溝を有し、前記溝の底部に設けられた表示電極（アドレス電極）上に樹脂等の保持部材で前記中空状の細線管が前記溝上に保持され、前記中空状の細線管の表面上に放電電極が設けられたことを特徴とする画像表示装置。

【請求項3】 中空状の細線管は、ガラスもしくは透明材料で作成されたパイプ状であることを特徴とする請求項1または2記載の画像表示装置。

【請求項4】 基板が、アクリルまたはポリカーボネートまたはガラスからなることを特徴とする請求項1または2記載の画像表示装置。

【請求項5】 青色蛍光体物質を含有するガラスの組成が、 $P_2O_5 \cdot AlF_3 \cdot MgF_2 \cdot CaF_2 \cdot SrF_2 \cdot BaF_2$; Eu^{2+} から成るフッリン酸塩ガラスで、赤色蛍光体物質を含有するガラスの組成が、 $P_2O_5 \cdot SrF_2 \cdot BaF_2$; Eu^{3+} から成るフッリン酸塩ガラスで、緑色蛍光体物質を含有するガラスの組成が、 $P_2O_5 \cdot SrF_2 \cdot BaF_2$; Tb^{3+} であることを特徴とする画像表示装置用中空ガラス管。

【請求項6】 樹脂またはガラス基板上にプレス成型、フォトリソまたは切削加工で溝を作成し、この溝上にアドレス電極を作成し、次にこの上に内面に蛍光体が塗布された放電ガスが封入された中空パイプ管を樹脂等の固定部材で固定後、中空パイプ管上に放電電極を形成し、その後、駆動回路を実装してパネルを作成することを特徴とする画像表示装置の製造方法。

【請求項7】 基板上に溝を作成する工程と、前記溝上にアドレス電極を作成する工程と、前記アドレス電極上に、紫外線により発光する発光管を固定部材で固定する工程と、前記発光管の表面上に放電電極を形成する工程と、前記アドレス電極、前記放電電極を駆動する駆動回路を実装してパネルを作成する工程を少なくとも含むことを特徴とする画像表示装置の製造方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、放電プラズマを用いた画像表示装置に関し、特に大型画像表示装置の軽量化、高輝度化が可能な画像表示装置およびその製造方法に関する。

【0002】

【従来の技術】 図3は従来の大型画像表示装置の1つであるAC型のプラズマディスプレイパネルの概略断面図を示したものである。

【0003】 図3において、31は、フロート法による歪点が 511°C で熱膨張係数が $85 \times 10^{-7}/^\circ\text{C}$ で厚さが2.6~2.8mmのソーダライムガラスより成るフロントカバープレート（前面ガラス基板）であり、この基板31上にインジウムスズ系の透明電極32、又その上にバス電極としての銀電極または、 $Cr-Cu-Cr$ 電極33から成る表示電極34があり、この上をコンデンサの働きをする誘電体ガラス層35と結晶配向面が(111)面に配向した酸化マグネシウム(MgO)誘電体保護層36がおおっている。

【0004】 従来誘電体ガラス層35には、主に酸化鉛(PbO)、酸化硼素(B_2O_3)、酸化珪素(SiO_2)、酸化亜鉛(ZnO)、酸化アルミニウム(Al_2O_3)から成る比較的低融点（融点 $500 \sim 600^\circ\text{C}$ ）で、熱膨張係数が $80 \sim 83 \times (10^{-7}/^\circ\text{C})$ の酸化鉛系のガラスが用いられてきた（例えば、特開平7-105855号公報）。

【0005】 又、 MgO 誘電体層36の形成にあたっては、主に MgO を原料に用いた電子ビーム加熱による真空蒸着法が用いられてきた（例えば、特開平5-342991号公報）。

【0006】 尚、37は、同じく歪点が 511°C で熱膨張係数が $85 \times 10^{-7}/^\circ\text{C}$ で厚さが2.6~2.8mmの背面ガラス基板（バックプレート）であり、この基板の上にアドレス電極（銀電極）38および隔壁39、蛍光体層40が設けられており、放電ガス41を封入する放電空間となっている。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】 近年ハイビジョンをはじめとする高品位、大画面（40インチ以上）壁かけテレビへの期待が高まっている。CRTは解像度・画質の点でプラズマディスプレイや液晶に対して優れているが、奥行きと重量の点で40インチ以上の大画面には向いていない。液晶は、消費電力が少なく、又パネル重量も少なく駆動電圧も低いという優れた性能を有しているが、画面の大きさや視野角に限界がある。

【0008】 これに対してプラズマディスプレイは、大画面の実現が可能であり、既に40インチクラスの製品が開発されている（例えば、機能材料1996年2月号Vol.16, No.27ページ）。

【0009】 しかしながら、現行のガラスの歪点が 511°C のソーダライムガラスで42インチクラスのパネルを作成した場合、パネル作製時に行なわれる電極、隔壁、誘電体および蛍光体等の熱処理工程（熱処理温度 $500 \sim 600^\circ\text{C}$ ）によって受ける熱歪によるガラス基板に割れが生じたりまたは、そりや収縮が生じたりしやすくなる。

【0010】したがって、このような熱処理によるガラス基板の割れやそりおよび収縮等を防止するためにガラスの厚みを約2.6~2.8mmに設定している。

【0011】従って、42インチのガラス基板でPDPを作成した場合(42インチ用のガラス基板の大きさは、約97cm×57cm、ガラスの比重2.49g/cm³、ガラスの厚み2.7mmとすると、前面・背面2枚のガラスで約7.4Kgの重量となる)パネルの重量は、回路を含めると10Kgをこえてしまう(例えば、ディスプレイアンドイメージング、1996年Vol.14, PP96~98)。

【0012】又一方、熱処理工程におけるガラス基板の割れやそりおよび収縮を少なくするためにガラスの歪点を高めて、熱処理工程による基板の変形(そりや収縮)を少なくするように開発されたガラス基板[例えばPD-200旭ガラス(株)製](例えば、ディスプレイアンドイメージング、1996年、Vol.14, PP99~100)においては、ガラスの歪点は、570℃に向上したが、ガラスの比重は、2.77g/cm³でソーダライムガラスの比重2.49g/cm³より重くなっている。

【0013】この高歪点ガラスを用いて、パネルの重量低減を計るためには、ガラスの厚さを従来の2.6~2.8mmから薄くすることが必要となる。しかし、PD-200はヤング率がソーダライムガラスより大きく熱膨張係数が $84 \times 10^{-7}/^{\circ}\text{C}$ とソーダライムガラスと変わらないため、ガラス板厚を薄くする熱歪により割れが生じやすくなる。

【0014】そのため42インチクラスの大きなパネルでは、2.6~2.8mmのガラス厚みがどうしても必要となる。したがってPDP用高歪点ガラス(例えば、PD-200)を用いて42インチパネルを作成すると、ガラスだけの重量が7.4Kgとなり、回路を含めるとパネルとして10Kgをこえてしまう(例えば、電子ディスプレイフォーラム97、1997年4月16-18, P6-8)。

【0015】したがって50インチをこえるパネルを作成しようと思えば、さらに重量が増加する。例えば100インチ級のパネルを作成しようと思うと50Kgをこえてしまうことが予想される。

【0016】そこで本発明は、ガラス基板上に隔壁や蛍光体層、放電電極等を作成することなく、中空ファイバー状のガラスを用いることによりブラズマディスプレイパネル等の大型映像表示装置の軽量化を達成することを主な目的とするものである。

【0017】

【課題を解決するための手段】本発明の画像表示装置は、上記の目的(パネルの軽量化)を達成するために、従来用いられてきた厚さが2.6mm~2.8mmで熱膨張係数が $83 \sim 85 \times 10^{-7}/^{\circ}\text{C}$ の低歪点(511

℃)のソーダライム板ガラス(その組成は、SiO₂ 72.5重量%、Al₂O₃ 2重量%、アルカリ土類R₂O 12重量%、アルカリ(K₂O、Na₂O)13.5重量%)や同じく厚さが2.6~2.8mmで熱膨張係数が $84 \times 10^{-7}/^{\circ}\text{C}$ の高歪点(570℃)の板ガラス(例えば、ガラスの商品名PD-200旭ガラス(株)製、ガラスの組成SiO₂ 58重量%、Al₂O₃ 7重量%、R₂O 21重量%、アルカリ(K₂O、Na₂O)14重量%)ではなく、肉厚の薄い中空状や角柱状のガラスファイバーの内面にMgOや蛍光体を塗布して発光部分としたり、発光物質が添加された中空状のファイバーを発光部分とすることにより従来のガラス基板に変わる薄肉ファイバーでパネルが作成できるために、パネルの軽量化が計れる。

【0018】すなわちガラス製の中空ファイバーが従来のPDPの隔壁や誘電体層を兼ねており、この中空状のファイバーをプラスチックやガラス板に樹脂を用いて固定することでパネルの軽量化が計れる。

【0019】また、高輝度化に関しては、Hg(水銀)-Ar(アルゴン)系の放電ガスを使用することにより、紫外線の波長を254nmとすることで(従来のPDPの紫外線の波長は、147nm、172nm)蛍光体の紫外線に対する発光強度をより強くすることが出来る(例えば、エレクトロニクス実装技術Vol.13, No.7 1997.7 PP.24)。

【0020】

【発明の実施の形態】(画像表示装置の全体的な構造及び製法)図1は、本実施の形態に係る放電を利用する画像表示装置の概略断面図である。また、図2は、図1の斜視図である。

【0021】図に示すように、本実施の形態に係る画像表示装置は、ストライプ状の溝13およびアドレス電極14が形成されたプラスチックまたはガラスからなる基板11上に、内面に蛍光体層、または、ガラス製で中空状の細線管自体に発光物質が添加されたガラス製の発光管となる中空状の細線管12(R(赤)、G(緑)、B(青)の3色が中空状の細線管のガラス内面に塗布されているか、または、ガラス中にR、G、Bの成分が添加されているかいずれか一種)を樹脂16で固定し、中空状の細線管12の上に電極幅250μmで電極間隔200μmの放電電極(X、Y電極)15を設けた構成になっており、この中空状の細線管内、いわゆる中空パイプ内には、放電ガスが封入されている。

【0022】(中空パイプの作成-1)「蛍光体粉末を塗布する方法」

R(赤)、G(緑)、B(青)3原色の基本となる中空パイプは、通常用いられている中空状ガラス(例えば、商品名13X-38, BLC, 日本電気ガラス(株)製)をガラスの軟化点付近まで加熱し、線引きを行なうて、例えば100インチのパネルを作るのに必要な外径

1.0mm、内径0.9mm、長さ130cmのパイプを作成する。

【0023】次に、このパイプの中に蛍光体液（エチルセルローズ5重量%、蛍光体を45重量%、 α -タービネオール50重量%）を流し込み、乾燥後約10 μ mの厚さに蛍光体を塗布する。

【0024】その後このパイプを500℃で30分間焼成して、一度パイプを真空引きした後、Hg（水銀）-Ar（アルゴン）系ガス、または、ネオン（Ne）-5%キセノン（Xe）ガスを50~500Torr封入して蛍光体付き中空パイプを作成する。

【0025】（中空パイプの作成-2）「発光物質がガラス中に添加されたパイプ」

まず、R、G、Bの3原色となる中空パイプ状発光体を作成する。中空パイプの作成-1と違って、蛍光体粉末を塗布するのではなく、R、G、Bのそれぞれの発光物質である、Eu³⁺（ユーロビウムの3価のイオン）、Tb³⁺（テルビウムの3価のイオン）、Eu²⁺（ユーロビウムの2価のイオン）をガラス素材の中に予め添加しておき、このガラス素材を線引きして中空パイプの発光体（中空状の細線管）を作成する。

【0026】赤色のガラスは、酸化リン（P₂O₅）、弗化ストロンチウム（SrF₂）、弗化バリウム（BaF₂）および酸化ユーロビウム（Eu₂O₃）の混合物を1000~1400℃で溶解させ、ガラス化し、外径1.0mm、内径0.9mm、長さ130cmのパイプ状に線引きを行なう。

【0027】次に、このパイプを真空引きした後水銀（Hg）-アルゴン（Ar）系ガス、またはネオン（Ne）-キセノン（Xe）系ガスを50~500Torr封入して、赤色発光の中空パイプを作成する。

【0028】同様にして、緑色はP₂O₅、SrF₂、BaF₂及び酸化テルビウム（Tb₂O₃）を1000~1400℃で溶解させ、ガラス化し、外径1.0mm、内径0.9mm、長さ130cmのパイプ状に線引きした後、Hg-Ar、Ne-Xe等のガスを50~500Torr封入して緑色発光する中空パイプを作成する。

【0029】また、同様にして、青色はP₂O₅、フッ化アルミニウム（AlF₃）、フッ化マグネシウム（MgF₂）、フッ化カルシウム（CaF₂）、フッ化ストロンチウム（SrF₂）及びフッ化ユーロビウム（EuF₂）を窒素（N₂）-水素（H₂）雰囲気中（1200℃）で溶解し、同様にして外径1.0mm、内径0.9mm、長さ130cmのパイプ状に線引きした後、Hg-Ar、Ne-Xe等の放電ガスを50~500Torr封入して青色発光する中空パイプを作成する。

【0030】（背面基板の作製）背面基板は、中空状の発光部分を保持もしくは固定する役割、及びアドレス電極と、発光部分を前面基板側に反射する反射層を有する基板である。

【0031】100インチパネル用の樹脂、またはガラス基板上（基板の大きさ230cm×135cm）にプレス成型、フォトリソ法、または切削加工法等で中空ファイバー状発光部分を保持する溝を作成して背面基板を作成する。

【0032】（パネルの形成について）次に、この背面基板の溝の底に熱または紫外線硬化型の銀電極用ペーストを用いて、電極幅250 μ mのアドレス電極を形成する。次に、中空ファイバー状発光体を溝にそって、R、G、Bの順に並べ中空ファイバーのすき間に黒色で絶縁性を有する樹脂をうめ込んだ後、硬化させる。

【0033】次に、樹脂によって保持された中空パイプ上に、電極幅250 μ m、電極間隔200 μ mの放電電極（標示電極）を銀ペーストを用いてスクリーン印刷法によって作成する。

【0034】次に、パネルを駆動する回路ブロックを図4のように実装して、画像表示パネルを作成する。

【0035】次にこの画像表示パネルを放電維持電圧250V、周波数30KHzで放電させ、パネルの輝度を測定する。

【0036】

【実施例】（実施例1）

【0037】

【表1】

試料 番号	中空パイプ状蛍光体		封入ガス	背面板	パネルの重量 (100インチ)	パネル輝度 (cd/m ²)
	中空パイプ用ガラス材料	蛍光体層				
1	BX-38(日本電気ガラス社商品名)	赤, Y ₂ O ₃ :Eu ³⁺ 緑, Zn ₂ SiO ₄ :Mn 青, BaMgAl ₁₀ O ₁₇ :Eu ²⁺	Ar-Hg	アクリル	15Kg	2810
2	BLC(日本電気ガラス社商品名)	"	Ne-Xe (5%)	"	"	1506
3	赤色, P ₂ O ₅ ·SrF ₂ ·BaF ₂ ·Eu ₂ O ₃ 緑色, P ₂ O ₅ ·SrF ₂ ·BaF ₂ ·Tb ₂ O ₃ 青色, P ₂ O ₅ ·AlF ₃ ·MgF ₂ ·CaF ₂ ·SrF ₂ ·EuF ₂	なし	Ar-Hg	ポリカー ボネート	13Kg	2060
4	"	"	Ne-Xe (5%)	"	13Kg	1315
5*	前面パネル用ガラス (PD-200, 旭ガラス(株)商品名) 厚み2.7mm	赤, Y ₂ O ₃ :Eu ³⁺ 緑, Zn ₂ SiO ₄ :Mn 青, BaMgAl ₁₀ O ₁₇ :Eu ²⁺	"	ガラス基板 PD-200 (旭ガラス(株))	55Kg	700

* 試料番号No.5は比較例

【0038】(表1)に示した試料No. 1~4の大型
画像表示装置は、上記実施の形態に基づいて形成したも
のである。試料番号No. 1, No. 2は蛍光体を中空
パイプ内面に塗布した形態で、No. 1は使用した中空
パイプのガラスは商品名BX-38(日本電気ガラス社
製)であり、No. 2は商品名BCL(日本電気ガラス
社製)である。又、蛍光体層はNo. 1, No. 2共
に、赤がY₂O₃:Eu³⁺、緑がZn₂SiO₄:Mn、青
がBaMgAl₁₀O₁₇:Eu²⁺を用いた。

【0039】又、試料No. 3, No. 4は青色にP₂O₅
・AlF₃・MgF₂・CaF₂・SrF₂・BaF₂・E

40 uF₂系の中空ガラス(発光物質内蔵)、赤色にP₂O₅・
SrF₂・BaF₂・Eu₂O₃系の中空ガラス(発光物質
内蔵)、緑色ガラスにP₂O₅・SrF₂・BaF₂・Tb
₂O₃系の中空ガラス(発光物質内蔵)を使用した。

【0040】封入ガスは試料No. 1, No. 3がHg
-Ar、試料No. 2, 4, 5がNe-Xe系を使用し
た。

【0041】試料No. 5は比較例として、従来のブラ
ズマディスプレイパネルの製造方法で100インチのパ
ネルを作成した場合の結果である。なお、ガラス基板
50 は、前面板、背面板ともに、厚さ2.7mmのガラス板

(PD-200旭ガラス社商品名)を使用し、ガラスの大きさは230cm×135cmである。

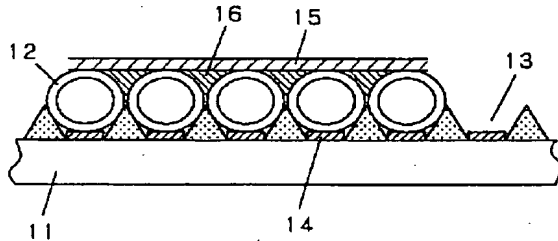
【0042】(実験1)上記No. 1～5のパネルを用いて放電維持電圧250V、周波数30KHzで放電させた時のパネルの輝度を測定した。その結果は、(表1)に示しているが、(表1)から明らかなようにNo. 1～4のパネルはNo. 5のパネル(比較例)に比べて重量が軽く、しかも輝度が高いことがわかる。

【0043】以上のように、本実施例によれば、パネルの前面側に細く軽い中空パイプ状発光管を用い、背面側にプラスチック基板を使用しているため、表1からも明らかなように試料No. 1～4のパネルは試料No. 5(比較例)のパネルと比べてパネルの重量が軽く、輝度も高いことがわかる。又、特にAr-Hg系ガスを使用した場合、高輝度になっている。

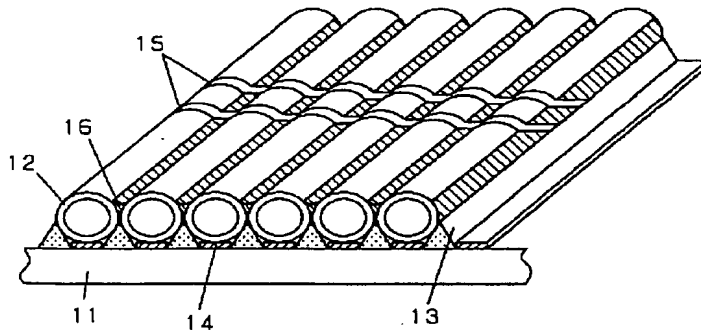
【0044】尚、上記中空状の細線管の材料はガラスを用いたが、ガラス以外でも好耐放電特性の材料、または軽量化可能な材料、または所定の発光特性の材料、またはこれらのいくつかを兼ね備えた発光材料、透明材料を用いてもよいものである。

【0045】

【図1】



【図2】



*【発明の効果】以上のように本発明は、ガラス基板上に隔壁や蛍光体層、放電電極等を作成することなく、中空状の細線管を用いることにより、プラズマディスプレイパネル等の大型の画像表示装置の軽量化を達成することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例による画像表示装置の概略断面図

【図2】本発明の一実施例による画像表示装置の概略斜視図

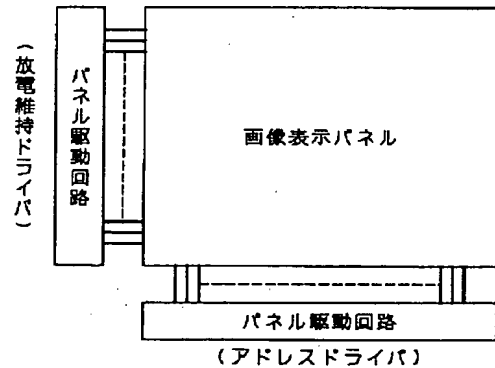
【図3】従来の交流型のプラズマディスプレイパネルの概略断面図

【図4】本発明の一実施例による画像表示装置の概略駆動回路を示す図

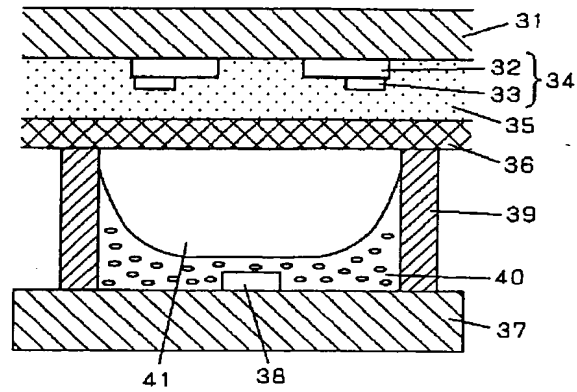
【符号の説明】

- 11 基板
- 12 中空状の細線管
- 13 溝
- 14 アドレス電極
- 15 放電電極(X, Y電極)
- 16 樹脂

【図4】



【図3】



フロントページの続き

(72)発明者 井上 一生
大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

(72)発明者 長尾 宣明
大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内